



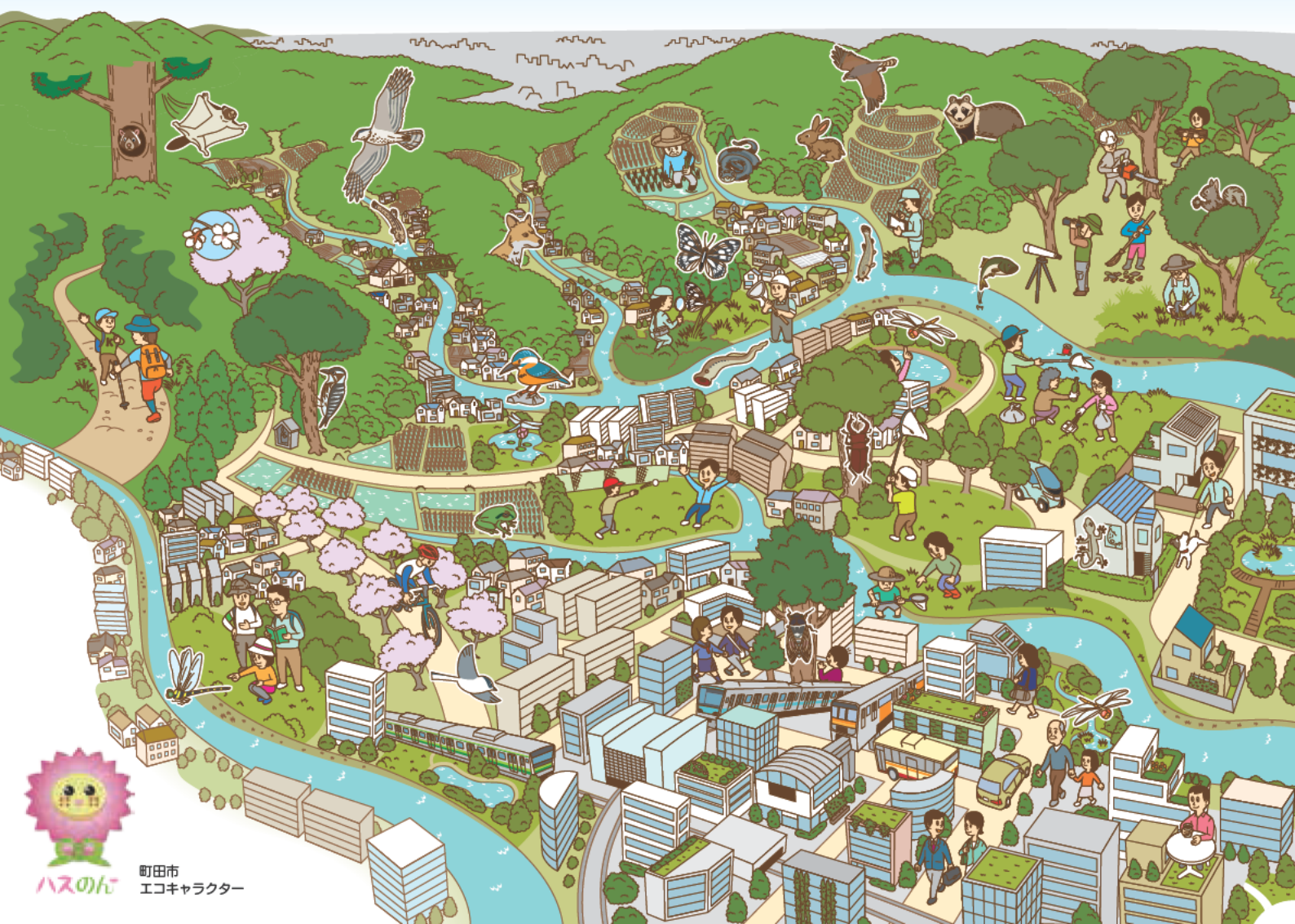
生物多様性 はじめの一歩

# 町田 生きもの 共生プラン

2015 - 2021

概要版

町田市



町田市  
エコキャラクター

## 町田生きものの共生プランとは

町田生きものの共生プラン（以下、「本計画」という。）は、将来にわたって、生きものとともに人々が豊かに暮らしていくことができる町田を目指し、市民・事業者・行政の協働により、生きものやその生育・生息環境を守ることと持続可能な利用を進めていくためのはじめの一歩として策定した計画です。

町田市は、川の源流から里山や街まで、様々な環境があります。それぞれの環境と、様々な生きもののいのちが織りなして輝いている豊かな町田を将来像として目指していきます。

### 目指す将来像

“源流から里山、街が織りなす いのち輝く町田”

この将来像の達成に向けて、本計画の対象期間である2015年度から2021年度の7年間において、重点プロジェクト（P.7参照）として、5つの取り組みに重点をおき、施策を推進していきます。

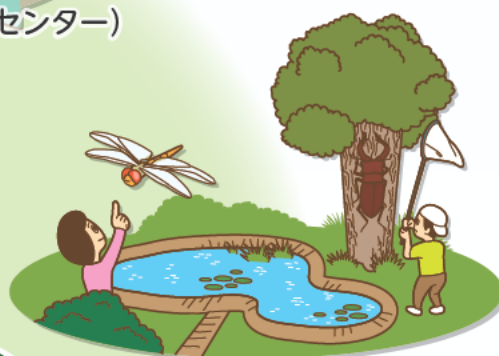


生物多様性情報拠点（生物多様性センター）  
機能の構築・充実



多様な主体の交流の場づくり

### 5つの 重点プロジェクト



ビオトープ作庭イベントの開催



里山の生物資源利用促進の  
取り組みの推進



市民協働による生きものの調査の実施



# 生物多様性とは

生物多様性とは、多くの生きものが、多様な自然環境とその変化に合わせて、存在しているということ、さらに、他の生きものとの間で様々なつながりを持って生きているということです。

また、【生態系】、【種】、【遺伝子】の3つのレベルで多様性があるとされています。



町田市には、山、谷戸、川、まちの中などの緑など、いろいろなタイプの自然があります。



町田市の多様な生態系の中では、いろいろな種類の生きものが生育・生息しています。



同じ種類の生きものでも大きさや色などに様々な個性があります。

生物多様性の3つのレベル

## 生物多様性の恵みと危機

私たちの暮らしは、食料と水、安全で快適な環境、やすらぎの空間など豊かな自然の恵みによって支えられています。どれもが私たちの生活には欠かせないものです。町田市においては、人々の暮らしを支えてきた里山などにやすらぎの空間が残されていることが、生物多様性の恵みのひとつとなっています。



生物多様性の恵み（生態系サービス）の4つの機能

現在、生物多様性は、①宅地化などによる緑地の減少、②耕作放棄地や管理されない里山の増加、③人間による外来種や化学物質の持ち込み、④地球温暖化の進行という4つの危機にさらされているといわれています。全国的な生きものの減少に伴い、生きものにふれあう機会も減ってきています。

## 町田市の生物多様性の特徴と現状及び課題

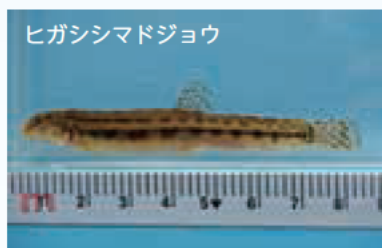
### 人と自然とのかかわりにより育まれた生物多様性

町田市には、丘陵地に「谷戸」と呼ばれる浅い谷状の地形があり、都心近郊にありながら、「里山」が残され、多くの生きものの重要な生育・生息環境が存在します。一方で、管理が行き届かなくなった里山の増加や住宅地の開発による谷戸、緑地の消失がみられるため、市民協働の視点を踏まえた里山の維持管理の仕組みづくりや、市街地における緑の確保、外来種対策など、市域全体の多様な環境を維持することが必要です。



谷戸の一例（小野路町）

### 源流部から市街地までの河川環境における生きもの



ヒガシシマドジョウ

市内には、鶴見川や恩田川（鶴見川水系）、境川の源流があります。源流に近い丘陵部の沢や水路では、清らかな水が流れ、ヒガシシマドジョウ等の貴重な生きものが生息しており、市街地を流れる河川でも良好な水質環境を必要とするホトケドジョウが確認されています。また、ホタル類やトンボ類なども確認されているため、多様な生きものが生息している河川環境を保全する取り組みを進めていくことが必要です。

### 広域的な緑のつながりを必要とする生きもの

市内のまとまりのある樹林地は、関東山地から三浦丘陵へと続く広大な緑のネットワークの一部となっており、猛禽類をはじめ、生きものの重要な生息環境となっています。一方、その一部は緑の連続性が分断しており、東京都や周辺自治体との連携などにより、緑の連続性を維持するための取り組みを進めていくことが必要です。



多摩丘陵の広域的な緑のつながり 出典：町田市緑の基本計画 2020

### 歴史・文化を支えてきた生物多様性の恵み

町田市では、かつて、雑木林での炭焼きが盛んに行われ、小野路近辺の炭は、「黒川炭」のブランド名で江戸に出荷されていました。また、市域の畑には桑が多く植えられ、戦前まで養蚕が盛んに行われました。町田市の歴史・文化は、生物多様性から得られる恵みに支えられ育まれてきていることから、生物多様性の恵みを大切にし、これを身近に感じられる環境づくりを進めていくことが必要です。

### 生物多様性の保全に関する活動や取り組み

市内の様々な場所で、市民や市民団体による生物多様性の保全に関する活動が進められています。また、生きものに関する貴重なデータも蓄積されています。一方で、データや活動情報の共有が不十分なことや生きものとふれあう機会も減少していることなどから、多様な主体が情報交換や交流を行う場をつくり、生物多様性に関する資料や情報の収集と発信を進め、子どもの頃から生きものや自然にふれあうことができる機会を提供していくことが必要です。



## 取り組みの紹介

町田市では、生物多様性保全のための取り組みとして、市民のみなさんが気軽に参加できる「自然観察会」や「セミのぬけがら調査」、「セミの鳴き声調査」などを行っています。また、「鶴見川源流保水の森の保全活動」など、市民のみなさんと協働で進める活動も行っています。

今後は、本計画で掲げた施策について、市民、事業者、行政の協働により取り組んでいきます。

### 自然観察会を開催しています

町田市では、忠生公園やかしの木山自然公園、小田緑地等の公園や緑地で、市民団体や市が主催する自然観察会が開催されています。忠生公園では、定例自然観察会とミ 観察会を開催しています。詳しくは、町田市のホームページ「公園・レクリエーション」をご覧ください。



忠生公園での自然観察会

### 鶴見川源流保水の森の保全活動を進めています

鶴見川の源流域には、水源の豊かな緑と水辺のもとに多様な生きものが生育・生息する里山が広がっています。この地域を「源流保水の森」と名づけ、2005年度よりNPOと町田市が自然資源を保全する活動を進めています。

詳しくは、町田市のホームページ「鶴見川源流保水の森保全活動の紹介」をご覧ください。



どんぐりの苗木の植樹

### 「セミのぬけがら調査」と「セミの鳴き声調査」を行っています

町田市では、2013年度に、市の南部地域で「セミのぬけがら調査」を行いました。自宅の庭や近所などでセミのぬけがらを集め、種類を見分けて数を記録していただきました。2014年度には、市全域で「セミの鳴き声調査」を行いました。セミの種類ごとの鳴き初め、鳴き終わりの調査にご参加いただきました。今後行う市民参加型調査について、広報やホームページでお知らせしますので、ぜひご参加ください！

詳しくは、町田市のホームページ「セミのぬけがら調査 結果報告」をご覧ください。



ニイニイゼミのぬけがら



「セミのぬけがら調査」2013

#### ムササビ

まとまった樹林地に生息しています。大木の中にできた洞（うろ：木の内部にできた洞くつ状の空間）に巣をつくります。



#### カワセミ

水辺に生息しています。源流のある町田市のシンボルとして、「市の鳥」に選ばれています。



### 市内の生きものたち

#### タマノカンアオイ

多摩丘陵をはじめとする関東南西部にのみ生育しています。



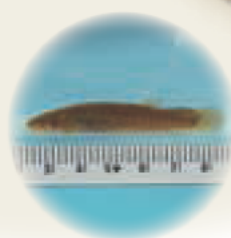
#### ヤマアカガエル

樹林地と水辺の連続性のあるところに生息しています。



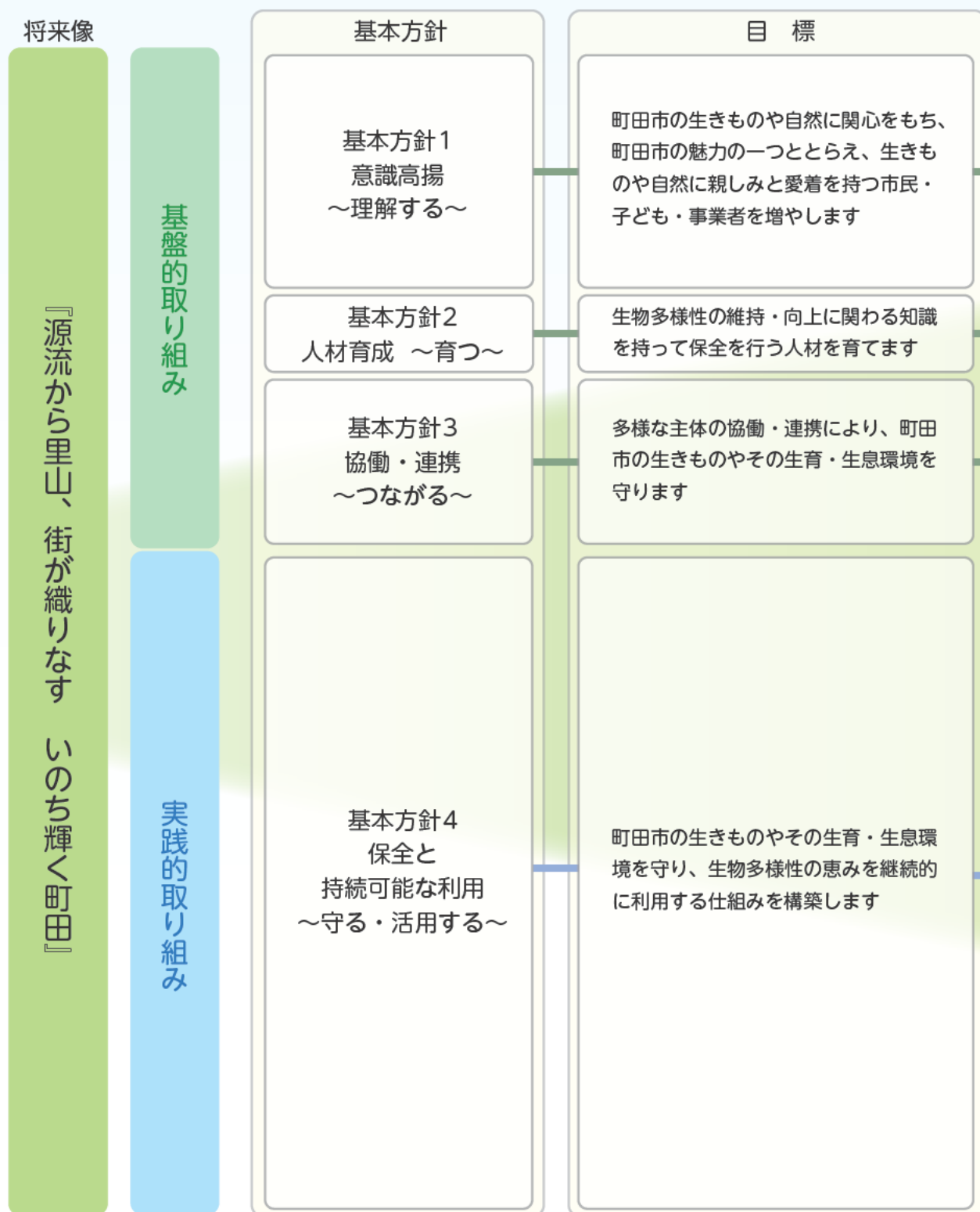
#### ホトケドジョウ

きれいな水質を必要とします。町田市の市街地を流れる河川にも生息しています。



## 計画の基本的な事項

本計画は、生物多様性基本法で規定している生物多様性地域戦略に該当します。本計画の対象区域は、町田市の全域とし、第二次町田市環境マスタープランの計画最終年にあわせて、2015年度から2021年度までの7年を計画期間とします。また、「まちだ未来づくりプラン」や個別の関連計画との整合を図りつつ進めていきます。



## 目標・施策の体系

将来像の達成を目指して、基本方針とそれに沿った目標を掲げ、施策を進めていきます。また、重点プロジェクトを設定し、施策を横断的に推進していきます。

本計画では、「意識高揚」、「人材育成」、「協働・連携」の3つの基本方針から成る“基盤的取り組み”と、「保全と持続可能な利用」の基本方針から成る“実践的取り組み”の2つに大きく区分しました。

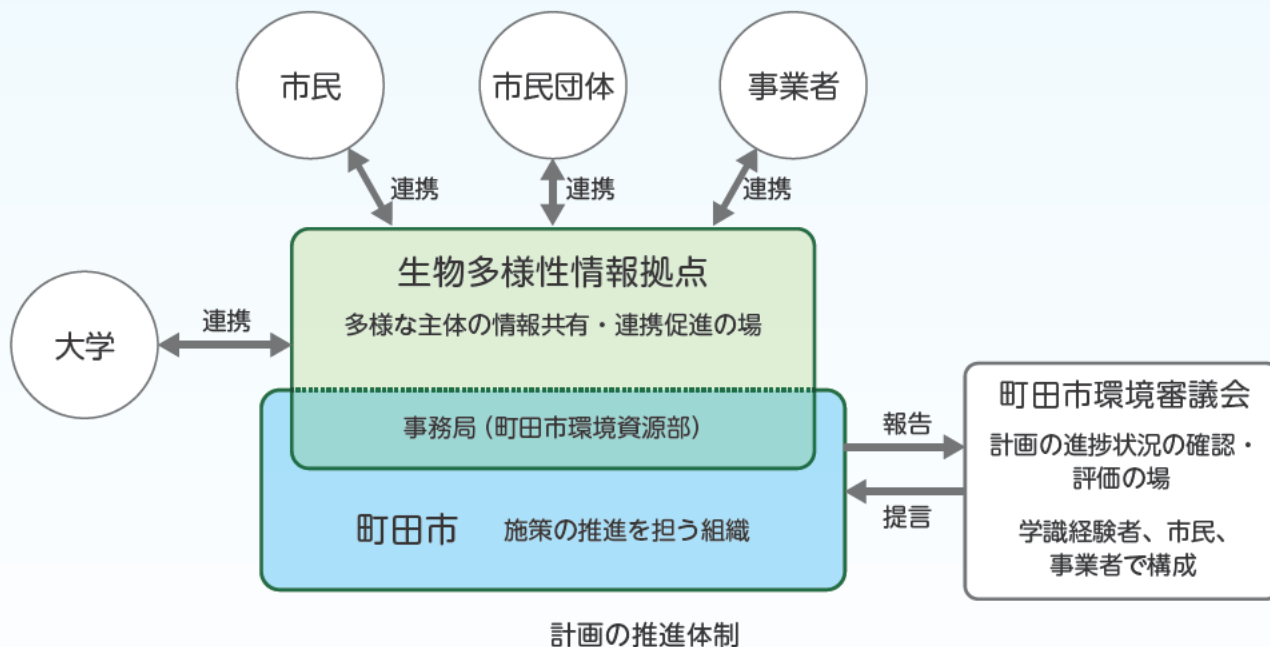
本計画期間では、生物多様性保全の推進に向けた“基盤的取り組み”を特に重視して取り組んでいきます。そして、少しずつ保全と持続可能な利用に関する“実践的取り組み”の割合を高めていきます。





## 取り組みを円滑に進めるために

本計画を推進するためには、市民や市民団体、事業者、行政等の多様な主体が、協働により取り組みを進めていく必要があります。そこで、「生物多様性情報拠点」を中心に、多様な主体が情報を共有し、連携促進を図ります。



- 計画（PLAN）、実行（DO）、点検（CHECK）、見直し（ACTION）のPDCAサイクルによる計画の進捗管理を行うことで、着実かつ効果的な計画の推進を図ります。
- 町田市が中心となって施策を推進していきます。
- 「町田市環境審議会」による進捗状況の確認・評価を行います。



発行者 町田市  
事務局 町田市 環境資源部 環境・自然共生課  
〒194-8520 町田市森野2丁目2番22号  
TEL 042- 724-4391  
発行 2015年5月  
<http://www.city.machida.tokyo.jp/>



この冊子は、2000部作成し、1部あたりの単価は161円です（職員人件費を含みます。）。

リサイクル適性 **A**

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。